# 【事業名】南九州-琉球産国内希少野生動植物種の生息域外保全（富山県富山市）　【団体名】公益財団法人花と緑の銀行

平成30年度　生物多様性保全推進支援事業
実績報告書別紙９－６

## 事業の背景・目的

（公財）花と緑の銀行が管理運営する富山県中央植物園は植物園協会の植物多様性保全拠点園として、本事業において申請する8種を含む多くの絶滅危惧植物の生息域外保全に取組んでいる。対象とする種が分布する南九州ー琉球は当財団の2名の研究員の研究フィールドであり、これまでもこの地域の植物の研究・保全を実施してきた。継続的生息域外保全の必要な遺伝情報や栽培特性、繁殖特性などを解明すると共に、絶滅が危惧される南九州ー琉球産国内希少野生動植物種を増殖・保存し、将来の野生復帰へも利用することができるように生息域外保全を実施する。

生息域外保全を実施している温室

## 事業の内容

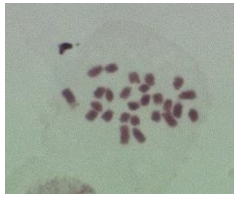
・事業①　事業計画の策定：継続的に生息域外保全を実施する事業計画を策定するための基礎情報となる各保有植物の開花などの特性調査を継続的に実施した。
・事業②　保全事業：系統保存しているヨナクニトキホコリの遺伝的多様性を明らかにするために染色体およびアロザイム、DNAを用いて解析を実施した。
・事業③　増殖事業：ユズノハカズラおよびヨナクニトキホコリの挿し木による増殖を実施した。アマミデンダとヒュウガシケシダの胞子およびヤドリコケモモの種子の播種を実施した。

多様性の解析をしたヨナクニトキホコリ

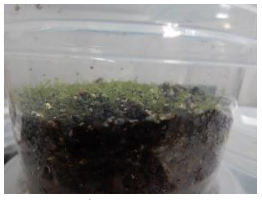
## 得られた成果

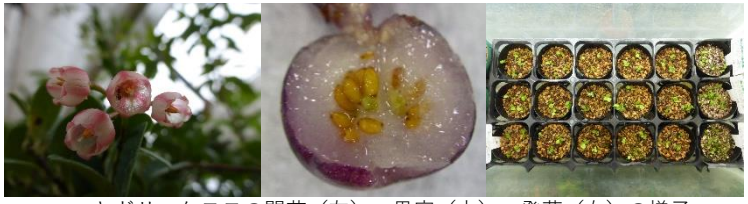
・8種中ヒュウガシケシダを除く7種で胞子形成時期または開花期に関する情報を収集することができた。
・保有するヨナクニトキホコリの染色体数が2n=26であることが明らかになった。
・ヨナクニトキホコリのアロザイム解析では非常に多様性が低く、１クローンである可能性が示唆されていたが、DNA解析の結果、多様性があり複数個体からなる可能性が明らかになった。この結果は、維持個体数を決定するための重要な情報となった。
・ユズノハカズラの組織培養では雑菌による汚染が大きな問題であったが、挿し木により増殖することができた。
・アマミデンダとヒュウガシケシダの胞子からの前葉体形成には成功したが、胞子体の形成には至っていない。
・ヤドリコケモモの種子繁殖による増殖ができた。

モノドラカンアオイの開花


ヨナクニトキホコリの染色体

ユズノハカズラの挿し木


アマミデンダの胞子の発芽


ヤドリコケモモの開花（左）、果実（中）、発芽（右）の様子